

健康文化

## 試験と採点

宮田 伸樹

医師国家試験は、320問が出題され、2日間で行われる。内容は医学全般にわたり、320問がA-Eのグループに分けられている。全問が5肢択一式であって、受験生は5つの選択肢から1つの正解を選ぶ。

今年3月に施行された第88回国家試験から、3問を例に挙げると、

### B-34

食道の良性腫瘍で最も多いのはどれか。

- a. 脂肪腫
- b. 平滑筋腫
- c. 神経鞘腫
- d. 腺腫
- e. 血管腫

正解は平滑筋腫であるから、bを答える。この様に、答えは与えられていてその中から選択する。次は、やや複雑になる。

### B-35

胸部中部食道癌の根治手術について正しいのはどれか。

- (1) 腹腔内リンパ節の郭清が必要である。
- (2) 左開胸で行うことが多い。
- (3) 再建臓器には空腸を用いることが多い。
- (4) 再建経路は後縦隔経路が最短距離である。
- (5) 術後長期のしゃがれ声は反回神経の損傷による。

- a. (1), (2), (3)
- b. (1), (2), (5)
- c. (1), (4), (5)
- d. (2), (3), (4)

e. (3), (4), (5)

選択肢が複雑になっている。正解は(1)と(4)と(5)であるから、正答は c である。

#### E-39

49才の女性。作業中3mの高さから転落して歩行不能となり搬送されて来た。両側下肢の著しい筋力低下と鼠径部以下の感覚鈍麻とが認められる。胸腰椎部エックス線単純写真の側面像を別に示す。

最も適切な治療はどれか。

- a. 安静臥床
- b. 持続牽引
- c. 体幹ギプス包帯固定
- d. 椎弓切除術
- e. 前方除圧固定術

別冊には、この患者の写真がありそれを見て答えるのだが、本問では、診断を直接に質問するのではなく、診断は分かったものとして、その上で治療を尋ねている。

内容は、もちろん難しいのだが、どの問題にしても解答は与えられている。それで、自信のない問題については、受験生はなんとか自分の知識に合う言葉を、問題文や解答の中から捜そうとする。何か正解に結び付くヒントがあれば正答となる訳だ。解答様式が複雑になる程、ヒントが多くなる。

しかし、実際の臨床医学では、選択肢は無いし、一つのヒントで患者の診断や治療ができるものではない。それで、上記の形式ではない、昔からの記述式の試験は、学生の知識を正確に評価できる試験形式として行われている。

だが、記述式試験での最近の学生の答えは全くいい加減なのだ。問題に正しく答えられないのだ。

進行胃癌のX線所見を述べよ、という問題にはX線所見を答えねばならないのに、進行胃癌について自分が知っている事を全部書く。X線所見であろうとなかろうと、知っている事を全部書く。中にはX線所見以外ばかり書いている

のがいる。

採点していて、おかしいんじゃないかと思う。何故聞いた事に答えないのかと思う。試験の前には注意する。問題に答えるんだと、知っている事を全部書けば良いんじゃないんだと。それでも全部書く学生がいる。

TVじゃないか、と思った。TVゲームの影響なんじゃないか。少しでも正解らしい言葉の端があると、お客さんに聞いてみましようなどと言う。拍手があれば、いつもあるのだが、正解にしちゃうのだ。あんなのを見てるから、少しでも正しければ、これで良いんだと頭や意識がそうなっちゃってるんじゃないか。

NHKに連想ゲームというTVゲームがあった。今はもうない。ジェスチュアゲームの言葉版で、2班が得点を競う。各々の班にキャプテンが居て、解答者が5名ずついる。キャプテンは、例えば[犬]という言葉に答えさせたいとすると、[ペット]などとヒントを言って[犬]を引き出そうとする。ルールが厳格だった。全くの正答でないとすべて誤答にされる。決められたルールは守るという点で、気持ちのよい番組だった。

これはついでだが、ある出題で[UFO]を答えさせようと、キャプテンが[お皿型]と言ったら、[ペチャパイ]と答えた女優がいた。誰だかは言わない。

元に戻って、選択式の試験問題は作るのに苦労する。正解がなくてはならないし、しかも唯1肢でなくてはならない。aもbも正解ではいけないんだ。また、同程度の難しさの5肢はなかなか無い。数合わせの為にとんでもない1肢を入れれば、事実上4肢からの選択になってしまう。だから、作るのに苦労する。

記述式の問題は作るのは大変に簡単だが、採点に苦労する。答案を全部読む必要がある。字が読みにくい、文章が分かりにくいと、途中で投げ出したくなる。しかし、全員の答案を一度に読まないで採点基準に差異がでる心配があるから、ある程度まとまった時間が必要だ。それで、記述式は採点が一苦労だ。

しかし、記述式では、とんでもない事を書くのがある、楽しい事もある。放射線の障害について記せ、に次の様な答案があった。10年以上前だがまだ記

憶している。その大意は、

自分は放射線障害について何もしらないので、書けない。しかし、広島市の出身で原爆を通じて放射線障害の怖さは身にしみて実感している。答案にする内容としては自分は知らないけれども、そしてそれは悪いことだけれども、しかし、専門家の例えば放射線科の先生が知っていて、皆さんに教えてくれるので、とても安心できる。

実際はもっと長文で、夕暮れの広島市の情景の描写があり、美文であった。満点にした。これは、前の進行胃癌の答案とは姿勢が違っている。こんな答案にはなかなか出会わないんだ。

選択式は、試験の成績が嫌も応もなく数字のみで出るので、客観的と言われる。それでも、低学年のうちには記述式で学生の知識の程度を知りたいと思う。そして、できれば楽しい答案に巡り会いたいと期待している。

(愛知医科大学教授放射線医学教室)